

グンゼラブアース倶楽部会報 2017

Vol.11



明日をもっと、こちよく

GUNZE

グンゼラブアース倶楽部 会員様へ



わたしたち『グンゼラブアース倶楽部』は、2006年4月、グンゼ株式会社の創立110周年を記念し設立されました。以来、社会貢献活動を行っている団体への支援などを通じてお互いが支え合い、より良い明日を実現する仲間になりたいと活動を継続しています。

日本では昨年の4月に熊本地震が発生し、今でも4万人を超える方々が避難生活をされています。グンゼラブアース倶楽部が支援する団体の多くがこのような大規模災害の被災者支援や環境問題への対応、子供のさまざまな問題改善などに尽力しておられます。

このような団体に対し、今後はグンゼの本業を活かした持続可能な支援を充実したいと考えております。これからもみなさまからのあたたかいご支援をお願いいたします。

2017年 7月

代表幹事

赤瀬康宏

CONTENTS

活動報告

activity report

P2

2016年 活動内容 / 決算・監査報告 / 支援先選定について

支援先紹介

Support place introduction

P4

認定特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会
特定非営利活動法人 国境なき子どもたち (KnK)
特定非営利活動法人 ロシナンテス 特定非営利活動法人 AMDA(アムダ)
特定非営利活動法人 シャプラニール・市民による海外協力の会
特定非営利活動法人 ACE NPO法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS
認定特定非営利活動法人カタリバ NPO法人 森は海の恋人
公益社団法人 Civic Force(シビックフォース) 公益財団法人 関西盲導犬協会
特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター
特定非営利活動法人 かものはしプロジェクト
特定非営利活動法人 ブリッジフォースマイル 計14団体

その他CSR活動

corporate social responsibility

P18

肌着支援 / 災害支援 / 協働活動 / ボランティア活動
ピンクリボン運動 / 福島復興支援 / 里山保全活動
放課後子ども教室 / もったいない活動 / その他活動



■支援先団体の選定について

2016年8月にA会員様を対象に支援先に関するアンケートを実施、その結果を受けて8月31日に運営委員会を開催しました。運営委員会では2015年度に支援した14団体がアンケートでの共感性が高かったため2016年度も継続することを決定しました。

実施期間：2016年7月22日～8月5日
 対象者：グンゼラブアース倶楽部A会員(225名)のうち、ノーツアドレス保持者215名
 回答総数：66名
 回答率：31%(A会員の29%)



■支援先団体について(計14団体)

2016年度は13団体へ各20万円の寄付と1団体へ20万円相当の肌着を寄贈しました。また、支援先との協働活動として、2013年から毎年1月に「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」を従業員に斡旋しています。

支援先	回数	支援金額
特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会	11回目	200,000
特定非営利活動法人 国境なき子どもたち (KnK)	11回目	200,000
特定非営利活動法人 ロシナンテス	10回目	200,000
特定非営利活動法人 AMDA(アムダ)	8回目	200,000
特定非営利活動法人 シャプラニール・市民による海外協力の会	8回目	200,000
特定非営利活動法人 ACE	8回目	200,000
NPO法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS	7回目	200,000
特定非営利活動法人 カタリバ	6回目	200,000
NPO法人 森は海の恋人	6回目	200,000
公益社団法人 Civic Force (シビックフォース)	6回目	200,000
公益財団法人 関西盲導犬協会	4回目	200,000
特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター	2回目	200,000
特定非営利活動法人 かものはしプロジェクト	2回目	200,000
NPO法人ブリッジフォースマイル	2回目	175,906

※ブリッジフォースマイルへはアパレル商品を購入し商品での支援を実施

グンゼラブアース倶楽部はグンゼの110周年記念の社会貢献事業として発足し、会員からの寄付と同額の会社からのマツチングギフトによる資金をもとに会員が選んだ団体への支援を行っています。

2017年度よりCSR活動を専門的に推進してきたCSR推進室は発展的に解消し、新たな方向性として現代社会を取り巻く課題を中核的な事業活動を通じて解決するという「戦略的CSR」が掲げられました。これはまさにグンゼ創業の精神であり、社是に掲げられている「優良品の提供に徹し社会に貢献する」そのものです。

今後、私たちラブアース倶楽部の活動も「単なる寄付」ではなくグンゼの事業やサービスを有効に活用した支援へとシフトしていく必要があると考えます。「持続可能な社会」の形成のために私たち一人ひとりができることや会社とともにできることを考えていきましょう。

これからもみなさまからの変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

グンゼラブアース倶楽部 事務局



支援先紹介

認定特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会

<http://www.cliniclowns.jp/>



クリニックラウンとは、病院を意味する「クリニック」と、道化師を指す「クラウン」を合わせた造語です。日本クリニックラウン協会は2015年に設立10年を迎えた団体で、ガンゼはラブアース倶楽部設立当初から支援を続けています。

クリニックラウンはただ楽しいだけではなく、厳しいトレーニングや実践経験と綿密なカンファレンス[※]により成り立っており、希望すれば誰でもなれるわけではありません。協会による選考後、約1年間の養成プログラムを受けながら実践を積み重ね、認定試験に合格した者だけが「クリニックラウン」になれるのです。ただこどもが好きだからではなく、こどもの視点・気持ちに寄り添った、イマジネーションを刺激する表現力や状況判断力、心の動きを敏感に感じ取れることが何よりも大切になります。

病院には乳幼児から10代後半、歩ける子から重病の子までさまざまなこどもたちがいます。クリニックラウンに驚いてほしくて電気を消して待っていたり、点滴台を押しながらクリニックラウンの後をついてくることもあります。そんなこどもたちのために、クリニックラウンは全力投球でこどもがこどもらしく過ごせる「こども時間」を届けています。

クリニックラウンの本場オランダでは約9割の病院でクリニックラウンが活躍しているそうです。日本では医療技術は進んでいますが、こどもたちに笑顔を届けるこのような活動は少ないのが現状です。日本クリニックラウン協会は、入院生活を送るこどもの病室を定期的に訪問し、遊びや関わりを通して、こどもたちの成長をサポートしています。

※カンファレンス…病室の訪問前後に、病棟スタッフとクリニックラウンがこどもたち一人ひとりの病状や変化、新しい課題や問題点などを検討する会議

■認定特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会 住所:大阪府大阪市北区末広町3-11

2005年に設立。クリニックラウンを小児病棟に派遣し、入院しているこどもたちがこども本来の生きる力を取り戻し、笑顔になれる環境をつくるために活動しています。現在、クリニックラウンは26名在籍、2016年度には国内の44病院に263回、8,447名のこどもたちを訪問しました。

8月7日は「レッドノーズディ」です。毎年、日本クリニックラウン協会では、広く多くの方々に参加できる「RED NOSE DAY ~1万人の笑顔大作戦~」を開催しています。お昼12時からの1分間、参加者全員でシンボルである赤い鼻をつけて、笑顔を贈りあうチャリティイベントです。RED NOZE (1個・300円)はチャリティも兼ねており、その収益は認定NPO法人日本クリニックラウン協会への寄附になります。詳しくは日本クリニックラウン協会のHPをご覧ください。

※毎年ボランティア募集の案内を出しています。多くの方ご参加をお願い致します。

支援先紹介

特定非営利活動法人 国境なき子どもたち (KnK)

<http://knk.or.jp/>



今年、設立20周年を迎えますKnKでは、学校へ行けない子どもたちの就学支援や、ほかの援助機関による支援の枠から外れがちな子どもをサポートする活動をしています。ラブアース倶楽部の支援金はこの中で主に教育支援に使っていただいています。未来の子どもたちを支援することだけではなく、今現在の「日本と世界の子どもたちが“共に成長する”」ための活動資金になっており、多くの国や地域で教育支援や職業訓練を行い、子どもたちが“自立”し、“地域社会の一員として尊厳ある人生を歩める”ための支援になっています。例えば「日本と世界の子どもたちが“共に成長する”」活動のひとつ、「友情のレポーター^{*}」は、日本の小学生や中高生が海外の子どもたちを取材することで世界で起きていることを知り、現実を広く伝える教育プロジェクトです。この活動は、自分たちができることを考えていく中から“成長”していくことも目的としています。新聞・テレビなどの報道でストリートチルドレンや劣悪な児童労働で搾取される世界中の子どもたちの状況を知ることができますが、そこから一歩進んだ「友情のレポーター」は、実際に子どもたちが自分の目で見て体験したことを、自分の周りの人に自分の言葉で伝えます。自分が体験したことを伝えることは絶大な力を持ちます。途上国の困難な状況にある青少年の境域支援と平行して、世界の子どもたちがお互い知ることで“共に成長”していくサポート活動をされています。

※友情のレポーター…

世界の国で取材を行いながら、日本と取材先の子どもたちの友情を取り結ぶのが「友情のレポーター」です。

帰国後は自分たちが見たこと、知ったことを日本の人々に広く伝え、日本で暮らす私たちにはどのようなことができるのかを考えていくのがその役割です。

95年の開始以来、カンボジアやフィリピン、東ティモールなどの国々に62名(2017年8月現在)が派遣されています。

■特定非営利活動法人 国境なき子どもたち (KnK) 住所:東京都新宿区下落合4-3-22

「世界の恵まれない青少年を支援すること」、そして「日本の一般市民、とりわけ若い世代の人々に対し教育啓発すること」を使命とし、日本と世界の子どもたちが「共に成長する」ことを理念に、現在は日本(東北地方)を含む世界7つの国と地域で活動しています。ストリートチルドレンや人身売買の被害に遭った子ども、大規模な自然災害の被災児など、恵まれない環境下にある青少年に、安定した衣食住と適切な教育や職業訓練の場を提供しています。彼らが一人でも多く教育を受け、自立できるよう活動を行っています。

支援先紹介

特定非営利活動法人 ロシナンテス

<https://www.rocinantes.org/>



ロシナンテスが創立されたのは2006年5月。実はグンゼラブアース倶楽部の創立2006年6月と1ヶ月違いになります。理事長の川原さんが「ひとりみんなの為に みんなはひとりの為に」の哲学の元、外務省の医務官の職を辞してロシナンテスを設立されました。その川原さんがスーダンに入って2016年で12年目になります。ロシナンテスはスーダンへき地の無医村地域を車で巡回し、一般検診、母子検診、予防接種、栄養指導などを行い、道なき砂漠をひたすら走り、2週間かけて29の村を回ります。ロシナンテスの設立当時は日本人スタッフを中心に活動していましたが、現在はスーダン人のスタッフも加わったため範囲を広げ、このような広いエリアでの巡回診療が可能になりました。しかし、村民が受診できる機会は1カ月に1度しかありません。「いつでも診てもらえる診療所がほしい」。地元住民の強い要望もあって、このエリアの中にある3つの村に診療所を建てる「土とレンガの診療所プロジェクト」を開始しました。2016年の3月、1棟目となるアルセレリア村に診療所が完成し、さらに12月27日にはアルハムダ村に2棟目の診療所が完成しました。次はウッド・シュウェイン村の診療所建設を予定しています。診療所、給水所、それに巡回診療がうまく機能するようにシステムの構築を地域住民の方々、それに当地域の保健所とともに考え、運営を行います。スーダン人によるスーダン人のための診療所の実現——今まで緊急対応、継続的な診療ができず、救うことができなかった命が救えう活動をされています。

■特定非営利活動法人 ロシナンテス 住所:福岡県北九州市小倉北区古船場町1番35号

アフリカのスーダンにおいて巡回診療や診療所建設などの医療支援事業を行っています。また、衛生な水の提供や医療従事者を育てる教育も広義の「医」として捉え、これらの事業も含む地域開発を現地住民と協働して行っています。「行列のできる法律相談所」でも活動が取上げられました。(放送:2010年2月7日)

「ロシナンテス」の名称はドン・キホーテにでてくる痩せ馬ロシナンテを複数形にしたものです。外務省医務官は外務省職員および在外日本人にしか医療を提供してはならないルールがあり、目の前の現状と自分の理想とのギャップを前に煩悶した川原さんも、それを支える仲間もみんな痩せ馬のロシナンテのようなものだが、そんな痩せ馬でもみんなで集まれば何か出来る、という思いに由来しています。

支援先紹介

特定非営利活動法人 AMDA(アマダ)

AMDA

<http://amda.or.jp/>



人道援助の三原則の一つ「援助を受ける側にもプライドがある」という気持ちを大切に活動されているAMDA(アマダ・Association of Medical Doctors of Asia = 旧称・アジア医師連絡協議会)は1984年に設立したNGO・国際医療ボランティア組織です。2006年に国連経済社会理事会から総合協議資格を世界で137番目、日本のNPO法人で初めて得ることが出来ました。

救える命があれば、どこへでも」をモットーに、国内外で発生する災害、貧困に苦しむ人々に対して相互扶助の精神で、医療を主軸に現場主義(「現地の人が一番よい解決方法を知っている」との考え)に基づいた特色ある支援活動を行っています。

2016年4月に発生した熊本地震では医療支援に加え、長引く避難生活を送っている被災者の方々に大変好評であった、鍼灸師による針治療を避難所が閉鎖される10月末まで実施。その他2016年に起きたハイチハリケーンでは食事支援や傷を負った人への診療活動を今なお実施されています。最近では、6月よりスリランカ南西部洪水被災者に対する緊急医療支援活動を始め、食事支援や文房具などの物資支援を行っています。

その他、近い将来発生が予想される南海トラフ災害に向け、大きな被害が想定される四国にあらかじめ10カ所の緊急支援場所を決定し、医療機関や自治体と連携して事前交流と支援活動計画を進めています。

このようなAMDAの活動は「与える」という上から目線ではなく、被災者の方と共に寄り添い、そのとき一番必要なことを届けるという気持ちを大切にされています。

■特定非営利活動法人 AMDA(アマダ) 住所:岡山県岡山市北区伊福町3-31-1

紛争による難民や災害の被災者に対して保健・医療を中心とした支援を行ってきました。現在は、世界32の国と地域に支部を持ち、紛争や災害が発生した際には、支部のネットワークを活用して多国籍医師団を結成。これまで世界67カ国でプロジェクトを実施し、180件(2017年2月現在)の緊急支援活動を実施してきました。

AMDAグループとは、「認定特定非営利活動法人AMDA」のほかに「AMDA International」「特定非営利活動法人AMDA社会開発機構」「特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センター」「アマダ国際福祉事業団」「AMDA兵庫」を含めた6団体およびAMDA国内支部、クラブから成ります。

それぞれの団体、支部、クラブは独立した会計で運営されています。

支援先紹介

特定非営利活動法人 シャプラニール

<https://www.shaplaneer.org/>



1972年に設立されたシャプラニールはバングラデシュやネパールといった南アジアと日本で社会や他の援助団体の支援から「取り残された人々」への支援や「取り残された課題」に取り組んでいます。

2015年4月に発生したネパール地震の緊急救援では、支援の行き届いていない被災者を中心に、生活物資の配布を開始しました。その後は、仮設住宅の建設支援、FM コミュニティラジオの再開支援、そしてラジオ局に併設したコミュニティ・スペースの開設（病人救出のヘリポート要請など）など、被災者が安心した日常を取り戻せるよう支援してきました。

インドとの国境封鎖の影響からネパールの農村被災者は未だに過酷な環境のトタン屋根の仮設住宅に住み続けており、復興はなかなか進みません。「自分自身で何が安全か、考え行動できる」ことを目指し、地域の人自身が今回の地震で役立った人や場所、水源などのリソースを整理して、今後の防災に生かす仕組みを指導されています。

近年、都市化が進み海外に出国する若者が増える一方だったネパール。そんな中、被災した少女たちからの「地震の前は、海外に行って働きたいと思っていたけれど、自分たちの町が崩れた様子を見て、私たちもネパールで頑張りたいと思いました。だから、忘れないで支援を続けていただければうれしいです」というメッセージが届いています。

シャプラニールは復興を縁の下で支えて行く活動をされています。

■特定非営利活動法人 シャプラニール 住所:東京都新宿区西早稲田2-3-1

シャプラニールの5つの価値観（「援助」をしない・自らの解決を促す・みんなで考える・現場から学ぶ・誰も取り残さない）に基づき現在行っている活動を整理し、今後5年間は、子ども、防災、フェアトレードに重点を置き「貧困のない社会」を目指して活動していきます。

フェアトレードの輪の拡大を目的とした通販カタログ「クラフトリンク」。販売協力店の新規開拓に力を入れているのですが、伸び悩んでいるのが現状のようです。「広報室員の日」でも紹介させていただきましたが、手作りの味のあふれる雑貨や石鹸がオススメです。ぜひ一度オンラインショップを覗いてみてください。

★クラフトリンクHP：<http://craftlink.jp/>



支援先紹介

特定非営利活動法人 ACE

<http://acejapan.org/>



ACEはAction against Child Exploitation(子どもの搾取に反対する行動)の略字が名前になっています。「働くこと」が嫌ということ以上に、教育や自由などの権利を奪われたり、精神的・経済的に搾取されることが嫌なのだ」という子どもの声から名づけられたそうです。

主な取組みは「児童労働の撤廃と予防」で、インドのコットン生産地とガーナのカカオ生産地で危険な労働から子どもたちを守り、日本で児童労働の問題を伝える啓発活動などを行っています。私たちラブアース倶楽部の支援金は、インドのコットン生産地での「ピース・インド・プロジェクト」での就学支援や自立支援活動などに使われています。

子どもたちの中には、学校に行きたいという気持ちを持っていても、貧しい家計を支えるためそれを声に出すことができない子どももいます。子どもたちを労働から守るため、貧困の解消や子どもの保護と就学支援に加え「学校へ行っても意味がない」「女の子は教育を受けなくてもよい」という現地の人々の意識を変えるための啓発活動を行っています。

児童労働が起きている現地で活動するだけでは児童労働はなくなりません。私たちの生活に身近な製品にも児童労働が関わっている可能性があることを自覚し、日本のような先進国を含む社会全体で働きかけることが必要です。ラブアース倶楽部では毎年“てんとう虫チョコ”の購入を通じ、カカオ生産の児童労働を伝えACEのガーナでの活動も支援しています。

ACEは、児童労働の撤廃と予防のため、多くの企業と一緒にさまざまな形で取り組んでおり、すべての子どもが安心して暮らせる社会の実現に向け、お互いの希望やニーズに適したご支援方法や活動を提案されています。

■特定非営利活動法人 ACE 住所:東京都台東区東上野1-6-4 あつきビル3F

世界中のすべての子どもが権利を守られ、希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、児童労働の撤廃と予防に取り組む日本生まれの国際協力NGO。「2025年までにすべての形態の児童労働をなくす」という目標の達成を目指し、児童労働をしている子ども・家族への直接支援、政府へのアドボカシー、企業との協働、市民の啓発と参加機会の提供を行っています。

売上の一部がガーナのカカオ生産地の子どもたちを支援する寄付になる「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」を毎年1月ごろ販売告知しています。贈った人も、もらった人も、ガーナの子どもたちもしあわせにするチョコレート。バレンタインシーズンにいかがでしょうか？



支援先紹介

NPO法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS

<http://www.plas-aids.org/>



「エイズ孤児」という言葉をご存じでしょうか？ 両親または片親をエイズで亡くした子供たちは年々増え続けており、2012年時点では世界に1,780万人に上るといわれています。エイズ孤児は生まれながらにして「生活が苦しいため教育を受けられない」「母子感染リスクがある」「差別を受ける」といったハンデを抱えています。NGO団体のPLASは、エイズ孤児の環境を少しでも良くしたいという7人の学生たちが2005年に立ち上げた団体です。

ライフスキル(生き抜く力のこと)には命の危険にあったときや怪我をしたときの対処力、自己肯定力、目標設定力、対人関係力などがありますが、PLASの支援地域を対象とした調査ではエイズ孤児は(同年代の子供たちと比較すると)そのどれもが低いという結果が出ました。その中でも、生きていく上でとても大切な自己肯定感が特に低いのも特長です。

一口に「エイズ孤児の自己肯定感」といわれても私たちの普段の生活からは遠い話のように感じられるかもしれませんが、「生きていく価値が見出せない」という状況は、私たちの心の中にも存在するのではないのでしょうか。だからこそ遠くの国で起きていることと思うのではなく、「自分がエイズだったら」「自分がエイズ孤児の片親だったら」と自分のこととして考えをめぐらせたいと思います。これは、お金の代えることができない、私たちが今すぐにできる支援の一つです。

PLASでは、エイズ孤児たちが少しでも将来を前向きにとらえ目標を設定できる力をつけていくために、今後は現地のケニア人によるカウンセリングを実施し、心理的および社会的にサポートされています。

■NPO法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS 住所: 東京都台東区上野5-3-4 クリエイティブOne秋葉原ビル7F

エイズ孤児の約85%がサハラ砂漠以南のアフリカにおり、PLASが活動しているケニアとウガンダにはそれぞれ100万人以上のエイズ孤児がいます。エイズ孤児は、教育を受けられない、HIVの母子感染のリスク、周りからの差別、偏見など、さまざまな課題を抱えています。こうした子供たちを支援し、教育を受けられるよう、また、子供たちが未来を切り開けるように活動を行っています。

2016年5月、グンゼ高分子OB会にてPLAS 小島さんに講演していただきました。
皆さん熱心に聞き入っていました。



支援先紹介

認定特定非営利活動法人カタリバ

<https://www.katariba.net/>



2001年11月に設立した「カタリ場」とは、大学生などのボランティアスタッフが高校生の進路意欲を高めるために行われる「動機付けキャリア学習プログラム」のことです。全国の高校生を対象とした、独自のキャリア教育プログラム「カタリ場」を年間約270回実施しています。2011年の東日本大震災以降、被災した子どもたちのための、放課後の学校「コラボ・スクール」を設立。宮城県女川町にて「女川向学館」、岩手県大槌町にて「大槌臨学舎」を運営しています。2016年の熊本地震の後には、熊本県益城町にて「ましき夢創塾」を立ち上げました。

ほとんどの高校生は、大学生や社会人と接する環境、将来についてリアリティをもって考える機会がありません。もし、高校生のころに進路の悩みを先輩に相談したり大学や仕事について体験談を聞く機会があれば、もっと主体的になれる生徒が増えるはず。そんな想いから活動が始まりました。

授業はすべてオーダーメイドで、訪問する学校の要望に応じて企画のテーマやロールモデルをカスタマイズします。また、授業に参加する大学生（先輩）たちは合計9時間程度の研修を経て、高いコミュニケーション力を身に付けた上で授業に参加しています。合計2時間の授業は3部構成で行われます。高校生が自分自身を理解する「座談会」に始まり、実体験からロールモデルを見つける「先輩の話」、最後に高校生が次の目標を決める「約束」を宣言して授業が終わります。

中高生にとって、親や教師（タテ）でもない、友だち（ヨコ）でもない、少し年上の先輩などの「ナナメの関係」を重視した、高校生たちの心に火を灯す活動をされています。

■認定特定非営利活動法人カタリバ 住所:東京都杉並区高円寺南三丁目66番3号 高円寺コモンズ2F

カタリバは、「生き抜く力」を備えた若者にあふれた社会を目指し、高校生への動機付けを行うキャリア学習プログラム「カタリ場」と、被災地の子どもたちの学習支援と心のケアを行う「コラボ・スクール」などの活動をしています。その他、生活困窮世帯の子どもたちに学びと居場所を提供する事業も展開。

2001年の設立から15年間で、約1300校を訪問。累計で約22万人の生徒に、授業を届けてきました。全国の高校生は約320万人。すべての高校生にカタリ場を届けることを目指しています。高校では、主に「進路」や「総合的学習」に導入しており、先生方からは「生徒の進路意欲が高まった」「将来について自ら話し始めるようになった」など評価をいただいています。

支援先紹介

NPO法人 森は海の恋人

<http://www.mori-umi.org/about/>



「森は海の恋人」は、環境教育・森づくり・自然環境保全の3分野を中心に活動する特定非営利活動法人です。活動の場である気仙沼では、古くからノリ・カキ・ワカメ・ホタテなどを養殖していましたが、昭和40年～50年代の高度成長時代、生活用水や農業で使用する農薬が川に流れ込んで海に赤潮が発生し、養殖業に危機が訪れました。

海の生物を育てるには山の森を豊かにすることが必要です。川の上流にある山の豊かな森林が多くの栄養分を作り、それを雨水が川に運んでやがて海に流れついてカキの餌となるプランクトンとなります。2009年の設立当時から「森は海の恋人」では、川の流域に暮らす人々と森に木を植える活動を始めました。約3万本に上る落葉広葉樹を植樹し、きれいな海を取り戻すことに成功しました。

活動を続ける中2011年に起きた東日本大震災で再び生き物は消え、海は死んだものと思われましたが、実は今、多くの生き物たちが大変な勢いで戻ってきています。こうした生き物の力強さと、全国の方々からの支援に支えられ、一度休止していた「森は海の恋人」も事業を再開しました。2016年には、夏と秋に宿泊型体験学習「子どもキャンプ」を実施し、たくさん子どもたちに身近に存在する自然の豊かさを感じてもらいました。このような環境教育に参加した子どもたちの数は、現在までに1万人を超えます。

『森は海の恋人植樹祭』によって人々の心に植えられてきた木は、この地域の森と共に力強く枝を伸ばしてきました。豊かな海を守るために森を大切にするという活動は、全国各地に広がる大きな運動となっています。「森は海の恋人」はこれからも体験学習を通じて自然の強さと尊さを子どもたちに伝えるとともに地域の方々と協力し、新たな地域づくりにも取り組まれています。

■NPO法人 森は海の恋人 住所:宮城県気仙沼市唐桑町西舞根133-1

ガンゼラブアース倶楽部は、東日本大震災のあった2011年から支援を続けています。3年前に当社のCSR推進リーダー会議に「森は海の恋人」副理事長の畠山 信さんをお招きしました。今でも東日本大震災の当事者としてのリアルな話を聞くことができました。失われたものは戻ってきませんが、少しずつでも復興していくことの大切さを感じました。

また、理事長の畠山重篤さんは20年以上広葉樹の植林活動を続けてきた功績が讃えられ、2015年に「みどりの文化賞」を受賞されています。昨年には、キャロライン・ケネディ駐日米大使が「森は海の恋人」を訪問されました。

さまざまな環境問題が深刻になりつつある現在、私たちは「自然」を守っていくとともに、あらためて「自然」の驚異を感じる大切さも考える必要があります。

支援先紹介

公益社団法人 Civic Force (シビックフォース)

<http://www.civic-force.org/>



昨年4月に起こった熊本地震、10月に起こった鳥取県中部地震、6年前には東日本大震災、22年前には阪神大震災…。多くの方々が被害を忘れることができない中、今、本当の意味での復興が進められています。近年は地震以外にも台風や大雨による洪水の被害、火山の爆発などの自然災害が度々発生しており、人間にとって驚異そのものになっています。

2009年設立のシビックフォースは、災害発生時に迅速で効果的な支援活動を行うために日ごろから多くの団体・企業・行政と連携を取っており、災害時には人命救助、支援物資の調達・配送、寄付、ボランティアの派遣など、その支援は多種多様にわたります。熊本地震でもいち早く熊本県に入り、益城町を拠点に支援活動を始めました。仮設住宅へ入居できるまでの間の「ユニットハウス村」運営のほか、全国からやってくるボランティアの調整やさまざまなイベントの開催など、今も避難者の生活サポートを続けています。

グンゼが熊本地震の際、いち早く肌着を届けることができたのも、シビックフォースとグンゼが普段から連携し、いつでも一定量の肌着やソックスを支援する体制を取っていたからです。通常の宅配便では熊本県に入ることができない状況の中、シビックフォースはチャーター便でグンゼ物流まで肌着を引き取りに来ていました。翌日には熊本県益城町に到着し、配布までしていただけたことに災害に迅速に対応するプラットフォームの役割、圧倒的な機動力を感じます。担当者の根木さんは現地のニーズを我々に伝えてくださったほか、寄付の状況や写真を随時送っていただきました。

現在シビックフォースは中央政府にも働きかけ、より迅速に災害に対応するプラットフォームを構築中です。グンゼもこれに賛同し「もの時」に備え、今後も提携を続けていきます。

■公益社団法人 Civic Force (シビックフォース) 住所: 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階

国内の大規模災害時に迅速で効果的な支援を行うためのNPO/NGO・企業・政府・行政の連携組織。災害時支援に必要な【情報】【人】【資金】【モノ】が組織内で共有・活用されることで円滑で効果的な支援を可能にします。

熊本地震が発生したのは4月14日。シビックフォースからグンゼの肌着や着圧靴下などの支援依頼があり、19日には益城町をはじめとした被災者の皆さまへ配布されました。「下着の配布は今回が初めてで、しかも新品。子どもが車のなかで食べ物をこぼしたり寝汗をかいたりするため、洗濯が必要だったが、飲み水も足りないなか、とても衣服を洗える状況ではない。子どもの着替えをさせたかったのが本当に助かった」など、うれしいお声が届きました。一早く被災地の方々のニーズにあった支援が出来た結果だと思っています。

支援先紹介

公益財団法人 関西盲導犬協会

<http://www.kansai-guidedog.jp/>



関西盲導犬協会は、盲導犬の育成と視覚障がいリハビリテーション事業を通して視覚障がい者の社会参加を促進し、視覚障がい者福祉の増進に寄与することを目的に活動を行っています。

盲導犬になる犬にとって非常に大切なものに、環境や状況の変化を肯定的に受け止められる「精神的な柔軟性」や「健康面」といった素質があり、それぞれ遺伝的要素が強く関与していると言われています。繁殖犬(父犬・母犬)を選んだり、その組み合わせを考える際は、生まれてくる子犬たちがそのような素質を持ち合わせることができるかどうか、といことに重きが置かれます。とはいっても、生まれてきた子犬のうち、パピーウォーキング、また様々な訓練や適性評価を経て、最終的に盲導犬(あるいは繁殖犬)となる犬は、10頭中3~4頭です。「盲導犬には向いていない」と判断された犬たちは、協会のPR犬として活躍したり、一般のご家庭に譲渡され、ペット犬としての犬生を過ごします。

盲導犬に対し見つめたり、視覚障がい者ではなく盲導犬に語りかけたり、撫でようとしたりなどの行為は決してしないでください。なぜなら盲導犬が作業に集中できなくなり、盲導犬ユーザーに危険が及ぶ場合があるためです。「盲導犬に出会った」ということは、盲導犬を使用して歩いている「視覚障がい者」に出会った、ということなので、盲導犬にではなく盲導犬ユーザーに声をかけてください。

盲導犬はたいていユーザーの左側にいて道の左側を歩いています。犬が苦手な方はその反対側に移ってくだされば、間近に接することは避けられます。何もしていない人に盲導犬が突然吠えかかったり、噛みついたりすることはないので安心ください。

イベントなどで見かける盲導犬はPR犬といって、盲導犬を広く知ってもらうための仕事をする犬です。こちらはそばに寄って触って大丈夫。ぜひ仲良くしてあげてください。最初は「かわいいなあ」と思ってくれるだけでいいです。そしてできれば、どうして盲導犬が必要なのか、一度考えてくれればうれしいと思います。

■公益財団法人 関西盲導犬協会 住所: 京都府亀岡市曾我部町犬飼末ヶ谷18-2

1980年11月発足、盲導犬を育成し、目の不自由な方へ無償貸与しています。京都府、滋賀県で活躍する盲導犬は、ほぼすべて関西盲導犬協会出身です。盲導犬の育成には多額の費用が必要です。2014年度グンゼのCSR推進リーダー会議では、実際に盲導犬に来ていただき、訓練のデモンストレーションを行いました。

毎月第3日曜日に盲導犬訓練実演・盲導犬ユーザーのお話・ボランティアの方との交流などを行う「関西盲導犬協会見学会」も開催しています。JR亀岡駅から無料送迎バスも出していますので、ご興味のある方は参加ください。4月にできた訓練棟「木香テラス」で癒されてください!

支援先紹介

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター

<http://www.ngo-jvc.net/>



1980年タイの難民キャンプに駆けつけた日本人によって結成された団体JVC(日本国際ボランティアセンター)は、多くの国とかかわりを持ちながら、現在は東北(日本)を含む11の国々で事業を行っています。朝鮮民主主義人民共和国、カンボジア、タイ、ラオス、アフガニスタン、イラク、パレスチナ、スーダン、南アフリカ、以上の9地域には日本人スタッフを配置し、地元に着した活動を続けています。紛争や災害などの困難の中に生きる人々の命を守る人道支援を続けるとともに、武力に頼らずに紛争が解決できるよう、国際社会に現場の声を伝えています。また、貧しい農村でも安定した暮らしを送れるよう、例えばカンボジアでは収入の低い家庭でも気軽に作ることができる野菜やハーブなどの栽培技術を教えるなど、持続可能な循環型の社会づくりを支えています。支援先の一つであるパレスチナのガザでは、イスラエルからの攻撃により街が破壊され、今も厳しい状況が続いています。パレスチナから撤退するNGO団体も多い中、JVCは今もガザの子供たちの栄養改善や保健教育を続けています。

また、日本国内についても、東日本大震災での支援活動として「気仙沼市」と「南相馬市」において、仮設住宅の集会場を利用して、サロンの運営や健康相談会の開催による交流会で、各家庭の孤立化を少しでも緩和させる事業を展開されています。

足りないものをあげるのではなく、つくる方法を一緒に考える。紛争で傷ついた人を助けるだけでなく、紛争を起こさない道をつくる。「問題の根本にこだわる」という思いがJVCの活動の基となっています。

JVCは日本をはじめとした全世界の人々を守り、また世界の紛争をなくす活動を続けられています。

■特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター 住所:東京都台東区上野五丁目3番4号

紛争の混乱にあるイラクやアフガニスタン、パレスチナなどでは医療や栄養などの人道支援、またラオスやカンボジア、ベトナムなどの農村では、安心して村で生きていける生活を支援しています。

日本国際ボランティアセンターの趣旨に賛同する人で会費を負担する人ならば、原則として誰でもJVCの会員になることができるのが特長です。例えば大学など高等教育機関の教職員、研究者、弁護士、医療関係者、在野の市民活動家、ジャーナリストなどがJVC主催の集会などで講師として講演活動を行っていたり、学部生や大学院生などが、ボランティアやインターンなどという立場で、JVCの運営などに携わっています。

支援先紹介

特定非営利活動法人 かものはしプロジェクト



<http://www.kamonohashi-project.net/>



<http://kamonohashiprj.shop-pro.jp/>
<http://shop.susucambodia.com/>

カンボジアやインドをはじめ、さまざまな国で18歳未満の子どもが、親がいない、農地がないといった貧困や、法執行力の弱さから児童買春の対象として売買されているという現実があります。世界中では毎年180万人の子どもが人身売買の被害にあっています。私たちが平和な生活を過ごしている、たとえばこの10分間にも、30~40人の子どもが世界中のどこかでだまされて売られているのです。そんな根深い問題に取り組んでいる「かものはしプロジェクト」のミッションは「子どもが売られない世界を作る」こと。2002年~活動をはじめ、現在はカンボジアとインドで事業を展開しており、カンボジアでは2つの活動をしています。1つ目は、子どもを買わせないことを目的とし、カンボジアの内務省および他の国際機関と提携した警察訓練の支援を実施してきました。この結果として、性犯罪加害者の逮捕者数は2001年から2010年にかけて約9倍となりました。2015年からは、国の事業としてすでに返還しています。

2つ目は、子どもが売られることを未然に防止するために、最貧困層にあたる農村においてい草の雑貨工場の経営を行なっています。貧しい家庭が安定した現金収入を得ることによって経済的に自立し、子どもが売られないような環境作りを行なっています。

また、インドでは2012年より活動をスタートし、大きく2つの活動を行なっています。1つ目は、一人一人のサバイバー（人身売買被害者）に寄り添い、被害者の傷を回復するプログラムです。現地NGOとパートナーシップを組み、売春宿にいる子どもたちの救出や被害者の心のリハビリテーションと社会復帰支援を行なっています。2つ目は、人身売買ビジネスの根幹を壊す、加害者を処罰する仕組み作りプログラムです。

現地NGO団体、警察、裁判所など、この問題に取り組む多くの人たちの連携を促進し、人身売買を許さない仕組みを築き上げるための活動を行なっています。

■特定非営利活動法人 かものはしプロジェクト 住所:東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402号室

日本事務所13名、カンボジア事務所32名のスタッフで運営する「かものはしプロジェクト」は、強制的に子どもが売られてしまう問題を防止する活動を、持続的かつ発展的に行い、世界の子どもたちが未来への希望を持って生きられるよう活動しています。また、全国各地でこの問題を伝えるための講演会を年間200回以上行っています。

読み終えた本やCD、DVDなどを5冊以上集め、(株)VALUEBOOKS(古本買取の専門店)に送ると、査定した相当金額がかものはしプロジェクトに寄付されます。その一冊が子どもを救います。「もったいない活動」に皆様のご協力をお願いします。

支援先紹介

NPO法人ブリッジフォースマイル

<https://www.b4s.jp/>



2014年に10周年を迎えたNPO法人ブリッジフォースマイルは、児童養護施設で生活する中学生、高校生、退所された若者の自立支援を行っている団体です。

親がいてもさまざまな理由で親元で暮らすことができず、児童養護施設に措置される子供たちが全国に約3万人います。高校卒業後の18歳という若さで施設を巣立ち、自立していきますが、自分の力で生活しなければならない現実に直面した子供たちにとって、適切な自立に向かうには、まだまだ社会のサポートが必要です。

ブリッジフォースマイルでは実際に企業で働く人たちと接する機会を設けたり、一人暮らし準備セミナーや退所後のネットワーク作り、住居支援などを行い施設を出てからも自立して生活できるようサポートしています。

グンゼラブアース倶楽部では、2015年度からこの「巣立ちプロジェクト」に協力し、昨年度には132名の参加者に肌着やパンスト、タイツを贈っています。このプロジェクトでは約半年にわたって6回のセミナーを開催し、社会人ボランティアとのかかわりを通して、知識だけでなく人間関係の築き方も学ぶそうです。

また、「カナエール」という奨学金プログラムでは、夢を語るスピーチコンテストを軸に児童養護施設からの進学を「資金」と「意欲」の二つの面で卒業までをサポートしています。児童養護施設に来る子ども達の約6割が虐待を受けており、その影響で信頼関係を築くのが苦手な傾向がありますが、巣立ちプロジェクトやカナエールを通し、自己肯定感を高めたりコミュニケーションを学ぶことが、自立へつながる大切な要素です。

各プロジェクトが終了した後も子どもたちとつながる仕組みを持ち、継続的な支援をされています。

■NPO法人ブリッジフォースマイル 住所:東京都千代田区大手町2-6-2 株式会社パソナグループ内

18歳で児童養護施設を出て、自立を迫られる子供たちが施設を「巣立つ前」から「巣立った後」まで、継続的にサポートし、自立を支援するさまざまな活動を行っています。その中の「巣立ちプロジェクト」では、引越しの手続きや金銭管理など、一人暮らしで必要となる知識やスキルをセミナー形式で実施しています。

18歳で一人暮らしをするには準備などの経済的負担が大きいため、生活に欠かせないグンゼの肌着はとても喜ばれているようです。今後も肌着やパンスト、タイツなどの支援したいと思います。

その他CSR活動

災害支援

★熊本地震(肌着支援)

2016年4月、公益社団法人 Civic Force(シビックフォース)を通じ熊本県益城町などに約14万枚の肌着を支援しました。

また、従業員からの義援金と同額を会社がマッチングし、2017年3月15日、「グンゼ(株)株主震災義捐金」名義で日本赤十字社に1,724,946円を寄付いたしました。



熊本地震支援状況

アイテム	数量	届け日
肌着(紳士・婦人・子ども)	約7,000枚	4/28
ソックス(紳士・婦人)	1,000足	
肌着(紳士・婦人・子ども)	約66,000枚	4/22
ソックス(紳士・婦人)	約50,000足	4/20
弾性ストッキング	2,000足	4/23
肌着(紳士・婦人・子ども)	約7,000枚	4/22
ソックス(紳士・婦人)	1,000足	
弾性ストッキング	約6,000足	4/19
高齢者向け肌着	200枚	8/10

その他、2016年度中間期(9月30日)の株主優待において、「熊本地震被災者支援への寄付」の選択をご用意いたしましたところ、多くの株主さまより温かいご芳志を賜り、2017年3月15日、「グンゼ(株)株主震災義捐金」名義で日本赤十字社に1,267,000円を寄付いたしました。



協働活動

★しあわせへのチョコレート プロジェクト2016

グンゼグループ全体で合計1,271パックの「てんとう虫チョコ」を購入しました。活動をされている認定特定非営利活動法人 ACEさまからは感謝状が届いています。



ボランティア活動

★『RED NOSE DAY』

8月7日 阪急百貨店 うめだ本店9階 祝祭広場
12時から1分間、シンボルでもある赤い鼻をつけて笑顔のムーブメントを起こそうという、毎年恒例チャリティイベント。

CSR推進室から3名がボランティアとして参加し、チャリティガイドでのイベント告知・場内案内・チラシの配布、募金のお願いなどを行いました。



その他CSR活動

ピンクリボン運動

★認定NPO法人J.POSH

ピンクリボン運動を推進している認定NPO法人J.POSHを2015年度より応援しています。

9月21日、江南物流センターで、江南厚生病院の乳腺外科医の飛永純一先生をお迎えして、乳がんセミナーを開催しました。

2016年度は船場(10月)・大阪(12月)・東京(2月)の3箇所で、GOSによる乳がんセミナーを開催しました。2017年は既に5箇所が確定。全国を回る予定です。



福島復興支援

★福島ひまわり里親プロジェクト

「福島ひまわり里親プロジェクト」は、2011年3月に発生した東日本大震災後、「福島県に震災復興のシンボルとしてひまわりを植えよう」と始まった活動で、福島の復興支援につながっています。

当社はこのプロジェクトの趣旨に賛同し、2012年から毎年、里親(全国の事業所)のもとで育てたひまわりの種を福島に届けています。2016年度は全国の20事業所がこれに参加し、約6.2kgの種を届けました。



里山保全活動

★京都モデルフォレスト運動

社団法人京都モデルフォレスト協会と「森林の利用保全に関する協定」を締結し、創業の地・綾部の市内2箇所で竹の伐採や遊歩道の整備など、里山保全のボランティア活動を行っています。

2016年は3回行い、総計52名の方が参加くださいました。

京都モデルフォレスト運動 in 綾部

日程	開催地区	参加人数	活動内容
4/23	鍛冶屋地区	19名	竹の伐採など
10/15	小畑地区	15名	遊歩道の階段整備など
11/12	小畑地区	18名	遊歩道の階段整備など



その他CSR活動

放課後子ども教室

★肌着教室

大阪府教育委員会が実施する「放課後子ども教室」に賛同し、2016年度より「肌着教室」の出前授業をスタートしました。グンゼでは「肌着を着よう!～汗の役割と肌着の効果～」と題し子どもたちに肌着の大切さを伝えています。

2016年度は関西の小学校17校で約670名の子どもたちに授業を実施しました。



2016年 実施小学校

実施日	開催場所	参加人数
7/28	泉佐野市立中央小学校	約80名
	泉佐野市立第一小学校	約40名
	泉佐野市立北中小学校	約40名
8/3	泉佐野市立日新小学校	78名
	泉佐野市立長南小学校	45名
	泉佐野市立上之郷小学校	58名
9/28	高石市立清高小学校	22名
10/12	門真市立沖小学校	26名
11/9	泉大津市立楠小学校	23名
12/13	日高川町立中津小学校	約20名
1/25	尼崎市立園田小学校	約50名
2/1	泉大津市立戎小学校	50名
2/13	泉大津市立旭小学校	47名
2/22	門真市立みらい小学校	12名
3/1	泉大津市立上條小学校	45名
3/23	泉大津市立浜小学校	40名
3/27	泉大津市立穴師小学校	4名

もったいない活動

★ATG活動の一環

ゴミ箱に捨ててしまえば単なるゴミとして処理されるものを、集めているモノ（ペットボトルのキャップ・アルミ缶・切手・はがき・古本など）を業者に買い取ってもらうなどしてお金に換えることで、支援に役立ててもらいます。

種別	寄付団体	実績(累計)	支援内容
エコキャップ	NPO法人 Reライフスタイル	2,952,653個	ワクチン購入など
プルタブ・アルミ缶	環公害防止連絡協議会 兵庫工場	2,037.6g	車椅子寄贈
使用済み切手	認定特定非営利活動法人	48,130g	植林のための苗木購入資金
書き損じはがき	緑の地球ネットワーク(GEN)	1,651枚	
古本	JEN東京本部事務局	93,037円	教育支援事業

その他活動

★「紺綬褒状」を受章

2015年6月に台湾(台北)で起きた音楽イベント会場の爆発事故の際、人工皮膚(製品名:ペルナック)を寄贈しました。この寄付行為に対し紺綬褒章を受章しました。

★カンボジアでの水泳普及

2016年よりグンゼスポーツでは水泳普及活動に力を入れています。その活動に対し、カンボジア水泳協会会長のスンチャントール公共事業・運輸省大臣から感謝状をいただき、オリンピックスタジアム内競技プールなどの運営委託を要請されました。

★キャリアデザインプログラム協力

研究開発部では毎年、立命館守山高校のキャリアデザインプログラムに協力し、当社の研究内容や研究に携わる社員のキャリア紹介、職場体験実習、座談会を開催しています。

